

令和6年度 第1回 麻績村総合教育会議 議事録

1. 日時 令和6年5月2日(木) 午前9時30分から午前10時40分

2. 場所 麻績村地域交流センター第3・4研修室

3. 出席者

(構成員)

麻績村長	塚原 勝幸
教育委員会	
教育長	加瀬 浩明
教育長職務代理者	小山 正文
委員	坂口 曜子
委員	小松 小百合
委員	高野 羊子

(構成員以外の出席者)

麻績保育園長	塚原 京子
麻績小学校長	伊藤 尊夫
筑北中学校長	臼井 伸明
事務局職員	3名
傍聴者	0名

(会議開会 午前9時30分)

1. 開会

○加瀬教育長

皆さんおはようございます。令和6年度第1回麻績村総合教育会議を開催します。どうぞよろしく申し上げます。

2. あいさつ

○塚原村長

おはようございます。ようやく暖かくなってきました。農作業等が本格的になってきた今日この頃でございます。教育委員の皆様方、そして園長、先生方におかれましては大変お忙しいところ総合教育会議に出席いただきましてありがとうございます。皆様におかれましては教育振興に向けて、常日頃ご尽力いただいていることに感謝申し上げるところでございます。また村で進めております各事業につきましてもいろいろな面で、ご理解ご協

力いただいていますことにも御礼を申し上げます。

新型コロナウイルスにつきましてもインフルエンザと同類になり、地域のコミュニティそして皆様方の生活が元に戻ってきつつあります。学校におきましても、戻りつつあるということで、子供たちも活気が出てきているのではないかと思っているところでございます。

さて、子供たちの教育環境につきましては、施設を初めソフト面での整備充実に向け、日々いろいろな事業を推進しているところでございます。また、ICTあるいはDX等の対応につきましても、徐々に整備をしてきているところでございます。実際的にいろいろな部分において子供たちのために整備が整ってきてるのではないかという気がしてるところでございます。今後におきましても、できる限り整備ができればと思っています。また、令和6年度におきましても、園や学校等からのご要望が出ていますけれども、全部を網羅というわけにはいきませんが、子育て環境、教育環境の充実を第一に掲げて整備しているところでございますので、よろしく申し上げます。

また保小中の一貫教育の推進に向けては、連携をしっかりといただきながら推進に努めていただいていることに感謝申し上げます。今後に向けても、より途切れのない、一貫した教育にご尽力いただければと思います。

社会教育の部分につきましては、昨年のおみっこ元気クラブを教育委員会で実施をさせていただいたわけでございますけれども、やはり昨年はキャンプも1泊2日でできました。また通学合宿についても実施できるようになりまして、ようやく子供たちもそういった活動に参加する中で、協力しながら活動に参加していることが大変良かったのではないかと思ったところでございます。実際的には、学校ではタブレット、家ではパソコン、それからゲームやインターネットということで、外で子供たちが連なって遊んでいる姿を見る機会がありません。そのような中で、やはり自然豊かなこの故郷での子供たちの活動が大切ではないかと思えます。また子供たちも一旦この地を出る機会があるわけでございますが、この地域の自然豊かで伝統文化の薫り高いこの麻績村に誇りを持てるような子供たちに育ててもらえればと思います。今年度におきましても、そういった活動につきましては充実する中で取り組んでいただければと思います。

子供たちが少ないという部分につきましては、社会情勢の中で少子高齢化という中において全国的なことだと思えます。しかし、少なければ少ないなりに興味のある教育に向けていただければと思いますし、また一人も取りこぼしのないようにしっかりと成長させてくれる取り組みができればと思うところであります。いずれにしましても保育園学校等のいろいろなことに対しまして、積極的に取り組んでいただければありがたいところでございます。

本日の教育大綱等の内容につきましても、見直しというような部分があれば忌憚のないご意見をいただければと思います。またその後の懇談の部分もございますので、お考えに

なっている部分につきまして、ご意見等いただければ今後の教育振興に反映できればと思います。いずれにしましても子育て支援、そして教育活動の充実、また高齢者や障害者にやさしい福祉の充実、そして農業商工業の振興あるいは皆様方の生活空間の整備促進など相対的な中で、限られた予算を使いながら、住みよい安心安全で子育てに優しい村作りに向けて、推進をしてまいりたいと思っているところでございますのでよろしくお願い致します。

いずれにしましてもこの麻績村の地域を支える子供たちです。明るく伸び伸びと逞しくそして強い精神力と体力をつけるような教育に向けて推進できればと思っております。今後におきましても、より良い教育環境の向上に向けて、今日お集まりの皆様方にはそれぞれの分野でご尽力いただき、ご理解ご協力をいただくわけでございますけれども、再度そういった部分につきまして、お願いを申し上げます。簡単ではございますが会議の開会に先立ちましてご挨拶させていただきます。今日はよろしくお願いいたします。

3. 協議内容

① 麻績村教育大綱について

- ・教育大綱は総合教育会議において毎年見直し、必要であれば改定が可能

○加瀬教育長

それでは協議事項に入ります。麻績村教育大綱についてです。昨年のこの総合教育会議において麻績村の第7次振興計画の教育部門のところであります。振興計画とそれからまた教育委員会において別立てで大綱を作ると同じことが出てきてしまうので、この振興計画を持って教育大綱にしていくということで昨年決定をさせていただきました。1年間ここに沿って進めてきたわけでありますけれども、教育大綱自体は総合教育会議において見直しをすることができます。必要であれば改定することが可能であるということになっております。これをベースとして進めてきているわけですが、それぞれご意見をいただければと思っているところであります。

基本的には、この内容は学校教育、それから生涯学習、こちらの社会教育的な部分のこと、それと青少年のキャリア教育、麻績村の文化や歴史についてのこと、そして生涯スポーツという形でそれぞれのところに分けて作成をされています。1年間やってきていただいて、この教育大綱がどうであったかというところも含めて少しご意見をいただきたいと思えます。

○伊藤校長

小学校です。学校教育の中にあるICT教育について、昨年度から少しずつICT支援員と契約をし、支援していただいております。そういう中で、小学校では今年度からデジタル教科書の導入がスタートしました。子供たちは学習タブレットを開いてデジタル教科書を活用しながら授業が始まっています。村で環境を整備していただいております。ありがとうございます。

それからもう一点ふるさと学習についてですけれども、昨年度の例になりますが6年生が故郷の民話の舞台となった場所に実際に行って調査をしたり、お話をしたりまた地域のいろいろな文化財の見学等を3年生4年あたりから聞いたりして、そのときに村の方いろいろな教えてもらったりしてきました。そのようなことから、小学校でもICT教育やふるさと学習に力を入れて行きたいと思っております。

○臼井校長

「ふるさと麻績の誇りと愛着を育みます」という点で、子供たちが誇りを持つためにどういうことができればいいのかというところは考えています。去年から聖山に登るようになって、あと2年生は善光寺街道を行ったりとか、あと3年生は地域の課題に取り組んだり、日常的にもっと麻績のすごさというか、良い所に触れるような場所があればいいかなと思っています。例えば善光寺街道についての情報について知りたいと思ったときに、聖高原にある博物館にあるよりもその場にあった方がいいと思ったりもします。この村の中心のところに、いろいろ多目的で村の歴史が見れるような場所があったり、学習する場所があったりとかするといいと思いました。

○塚原園長

子供たち一人ひとりと向き合い、寄り添った保育に取り組んでいます。ICTの部分については保護者との連絡ツールとして導入したばかりです。このICTを活用することによって保育の様子や行事など配信することで、子供の様子を近くで見られるように取り組んでいきます。地域の方との交流に力を入れて行きます。今年度はわくわくの方との交流の中で聖山に親子で登ることを計画しています。麻績村の中にもこんなに楽しいところがあるんだよという所を広められたらと思っています。

○加瀬教育長

ありがとうございます。実際にICTはかなり進んでいます。それぞれのところでもタブレットを使って学習をしています。

もう一点交流型学習ということに関して、昨日小学校と中学校の子供たちが一緒に小学校に来て昼食をみんなで食べました。私も一緒に食べさせていただきました。本当は外でお弁当を食べるという予定でいたのですが、だいぶ寒く時折小雨もぱらつく状況だったので、体育館と、それからランチルームに分かれて食べました。中学生が、それぞれの班に分かれてうまくリードしながら進めていました。非常に良い試みだったことを感じました。そんなところをスタートにしてこれから交流といいますか、そういった機会を大事にしながらやっていくということで、子供たちが一体になると思います。一番良かったのは先生たちが、一人ひとりの子について全部周知していることです。

保育園と中学校とで離れてはいますが、時々保育園の子供たちが行ったり、中学生が

来たりということも進めているので、交流学习に関してはだいぶ進んでいるかなと思います。さらに進めていければと思います。やはり一貫教育の一番の柱は、どの先生も子供たちのことを知っていることです。これがやはり大きいところかなと思います。合同職員会議等もまた計画をされています。繋がりを大事にしていく活動をしていますので、さらに進めていけるといいかと思います。

ふるさと学習はそれぞれ校長先生たちがリーダーとなっていただいて、いろいろな取り組みをしています。いよいよ、地域の人たちにも入ってもらってもよい環境となってきました。進めていただければと思います。委員の皆さん方からいろいろご意見等あればお願いします。

○坂口委員

小学校と中学校の合同給食の件になります。3年ぐらい前の小学校のPTAの座談会で、「保育園の子供たちが、小学校とか中学校の児童生徒と一緒にご飯を食べる機会があったらすごくいいよね」という話が出ていたことがありました。コロナの時だったので現実的ではありませんでした。保育園の子と学校の子供たちのご飯の時間はだいぶ違うから難しいのかと思いますが、機会があれば今度は保育園の人たちも交えて何かそういうのがあったらすごく良いと思います。

○加瀬教育長

保育園いかがですか。

○塚原園長

はい、是非。小中でやっているのを聞いて行きたかったぐらいです。毎月のお誕生会のときに給食をお弁当形式にして、保育園のどこでも食べていい日を設けています。時間帯が違うのですが、年中年長それから年少は後半になれば対応できるかと思います。逆に来てもらえれば、いろいろな場所で食べることは可能です。そういった一日にできればうれしいです。

○加瀬教育長

ありがとうございます。いろいろなことを多分できるだろうなと思います。昨日もそれぞれ大変だったと思いますが、保育園が入っても多分できるんだろうなと思います。中学生がよく動いてくれて、どんどん指示をされていて本当にいいなと思いました。

○臼井校長

小中の合同職員会は年間4回ぐらいやっています。いろいろな話し合いをすることで職員が繋がることを感じます。保育園の先生と一緒に話をするような場面がありません。夏休みあたりの頃に来れる人が来て参加するのがいいかと思います。職員と一緒に話をして繋がっていくことが大事だと思います。

○加瀬教育長

Zoomでやってもよかったなと思いましたし、いろいろ工夫をしながら進められればと思います。

○小松委員

保小中一貫教育について先生方協力し合っていていい感じに進んできているように感じます。今まではコロナで難しかったのですが、これからはそこに地域の人たちにより多く関わっていければと思います。おみスクールパートナーズを起点にして村民皆が一丸となって子育てに当たるそんな活動ができるようになれば良いと思います。

○加瀬教育長

おみスクールパートナーズは非常に大きな存在であります。実際にコロナの中で、なかなか学校に行くこと自体が遠慮しなければという状況がずっと続いてきました。いよいよできる時になりました。学校から具体的にこういう支援が欲しいとか、こういう人に来てほしいとかリクエストを出してもらえると、こちらも繋げやすいなと思います。学校もいろいろ変わってきていますし、いろいろなニーズが出てくるかと思います。校長先生が中心になっていただいて、先生方の意見や子供たちの要望もどんどん吸い上げるとありがたいと思います。おみスクールパートナーズの会を早い段階で実施したいと思います。

○小山職務代理

少人数で井の中の蛙になることなく、外の交流と言いますか、違った環境の地域と交流できるような形も考えていただければと思います。

○臼井校長

修学旅行に行ったら、すごい成長してきました。元々そういう素地があったと思いますが、奈良・京都の3日間で変わりました。海外経験をさせて1週間くらい行って戻ってくると、さらにインターナショナルな視点で成長ができるのかと思います。希望者になるかかもしれませんが、ある程度自己負担と少し村で補助してもらって行ってくると、いい経験

ができると思います。

○高野委員

保小中の一貫教育については具体的に進んでいますけれども、卒業した後の子供たち高校生大学生成人になってからの繋がりがちょっと薄いのではないかなと思います。例えば中学、小学校で経験談を話してもらうとか、あるいは文化祭に卒業生が来て、何か活躍できる場があるといいと思います。また、おみっこ元気くらぶなどにも「ボランティアしたいよ」という声もあれば、受け入れて一緒になって遊んでもらうとか、そういう関わりができる機会があるといいと思います。地域にそんな子供たちを受け入れる場所や機会があると子供たちの自信につながるような気がします。

○加瀬教育長

何かの機会があったりすることは大事に考えなければいけないと思いました。確かに中学を卒業してしまうとなかなか関わることができなくなってしまいます。基本的には0歳から18歳と子育ての部分で麻績は大事にすると言っていますので、またいろいろなご意見を頂戴して、やれることがあればやっていきたいと思っています。

○臼井校長

中学校でいえば、部活の関係でそのような繋がりができる感じがします。

○加瀬教育長

他いかがですか。よろしいですか。それでは、教育大綱に関してはこのまま継続で進めていきたいと思っています。意見交換のところであればご意見をいただきたいと思っています。

4. 意見交換

○坂口委員

スクールバスの件については以前からお話させていただいております。やはり山間地域ならではの通学の困りごとは、どうしても親も子供たちも感じています。小学校でも中学校でももちろん高校でも心配している親は多いです。頼れるおじいちゃんおばあちゃんもなかなかいないという状況で心配されてる方もいます。やはり中学高校となったときに、どうしても通い難いと思えば、この地域から出て行ってしまわないかと心配なところで残念だと思います。中学校でも高校になっても、もちろん小学校でも親ありきではなくて、下校時刻を心配しなくても親が働けたり、子供たちもそういうことに心配しなくてもよい麻績村になってほしいです。いろいろ調べてみると少人数だったらバスは出せないけどタクシーを使えるとかそういう地域もあるようです。子供の時の通学の困難さが解消

していけたらいずれ麻績村の発展につながると思います。

○加瀬教育長

前回の定例会でもお話した通り、まずはこの地域から根本的にバス自体がなくなってしまうという大問題になったわけですが、とりあえず聖高原バスが何とかやりくりをするというところまでようやく4月の初めにこぎ付けているところであります。そんな状況であることは一応理解していただきたいと思います。

○塚原村長

皆様ご承知の通り、2024年問題ですけれども、やはり労働者の環境改善という部分があります。労働時間帯が限られてくる。残業時間が限られてくる。松本市、長野市でも減便が行われています。長野松本間の高速バスも4月から中止となっております。どこの町村においても、運転手不足という中で、どうしても需要に供給が追いつかなくなっています。私も大変心配している中で、どこか引き受けてくれるところはないかということで、聖高原バスが引き受けていただいたという経緯でございます。

そのような中で、皆さん方から要望されておりますスクールバスに限定しますと、しいて言えば、現在バスが通っていないところ北山や市ノ川にも全部バスを出さなければならぬことになってしまいます。そうするとバスが何台あっても足りない状態になります。今ご要望が出ているバスに乗っていただいている方々が、時間帯がどうもよく合わないとのことなので、朝の便と夕方の便について、特に低学年の皆様においては20分ぐらい待つというお話をいただいております。増便できないかということで交渉に入ってます。増便するということになると、バスはいいのですが、やはり運転手さんの問題点があります。運転手さんも労働時間がありますので、運転手さんがいるから、もう1日働いてもらっても大丈夫とはなかなか難しいところがございます。村で案を作ってそれをもって聖高原バスへ交渉に入っております。4パターンぐらい作っています。本当は一番良いのは朝夕1便ずつ増便ということで、実際には8時ぐらいに到着する時間帯を考えています。夕方の便については、低学年が早い時間帯に帰るということでございますので、3時ぐらいのバスを入れ込めないかということで今検討させていただいています。しかしながら、バス会社の運転手さんの問題を含め様々な問題がございます。第2案としては、滑沢と樺内線の両方を一気に出すという形も考えてあります。低学年は数が限られているので周回バスという案です。滑沢方面から上がって行って日向支所を経由して一周していただければいいのではないかと考えています。そうしますといつも下井堀方面の子は早いですが、丸山方面の子はいつも遅くなってしまわないかとの懸案から、それは1年とか半年毎に逆にしたらどうかなど、様々なことを検討しながら、今担当とバス会社と交渉させていただいてるということです。

なかなか完全にスクールバスというような形にはならないわけではございますが、とりあえずはいづれかでもその一つ一つ改善をしていく中で、将来的にこういうふうになればというようなことでございます。それと同時にバスを動かすということになりますと、そ

の時間帯に接続している列車の時間帯すなわち高校生などの通学の部分がございます。しかしながら年間乗車数を見ましても子供たちの朝夕の通学の乗車数が一番多いというようなことでございますので、若干ずらしてもいいような形です。今検討をさせていただいてございます。いずれにしましても、バスの運転手の皆さん方は全員村外の方々です。なおかつ第一線を退いている方々になります。実際に次の方を探すということもなかなか難しい部分でございます。

そしてライドシェアというような形の話も出てきておりますけれども、やはり一番困るのは安全運転と責任問題、そして何かあったときの補償問題となります。そういう形になれば、やはりプロの方々をお願いした方がいいのではないかとというようなことで、今検討させていただいているということでございます。

もう少し待っていただいて早い時期に時刻変更をして、先ほど述べるような形を取ればと考えさせていただきます。お願いしたいと思います。

○坂口委員

厳しい中いろいろ検討していただきありがとうございます。

○小山職務代理

村外の人たちの交流という件の提案になります。子供たちだけではなくて大人も含めて村外の人たちとの交流に伴う環境作りが必要じゃないかなと思います。そういう中で一つ、耕さなくなった農地が増えているので、花を植えるとか活用してはどうかと思います。事務局を観光課なり村づくり推進課でやっていただいて、汗を流すのは我々シルバー層を活用したりする中で月に一度か数回とか外から来てもらって活動できたらどうかと思います。

○塚原村長

各集落においても花いっぱい運動ということで、集落でやっていただいております。また、駅前の花壇をきれいにしようと商工会でもいろいろやっていただいております。行政が立ち上げると、なかなか続きません。やはりそういう団体の皆様方が中心となって行政がそれをバックアップしているところもでございます。私どもの地域でもそういったところに取り組んでいただければありがたいと思います。植えるまでは楽ですが、その後の管理という部分を皆様方とかいろいろ願う中でできればいいわけでございます。花いっぱい運動というようなものを村で推進していますので、今後ご支援もします。農地がどんどん遊休荒廃化しています。今高齢化による離農者が、どんどん増えています。自然豊かで田植え時期には月が水面にうつる風景が、大変すばらしいふるさとのイメージを形作っていますが、現実にはススキの藪に覆われてしまっている所があります。担い手という部分の問題もあります。そういった部分についても村で推進しできればと思います。

いろいろ子育てについては、感じてることそしてご意見等あろうかと思えます。実際にできることできないこと、すぐできることあるいは検討しなければいけないこと、いろいろございます。やはり今国においても、子育てを第1に掲げてございます。10年前を振り返ると、高齢者福祉の部分を中心に前面に出せばそれで済んでいたわけでございます。しかし、少子高齢化というような形の中で、どうしても人口減少はどうにもならない時代になってきて全国的な部分でございます。そういった中でやはり子供たちを寂しくさせない時代をみんなで盛り上げなければならないのが今の一番の課題であります。

将来を担う子供たちが元気に、健やかにたくましく、そして自立できる力、それから体力等の向上という部分が、一番大きいところであります。また先ほど言いましたけれどもやはり ICT や DX が進んでいった時に、人と人の対話や人間らしさの育成も大事ではないかと思えます。一旦将来は外に出ますけれども、またいずれ帰ってきていただけるような子供たちが育ってくれればと願います。

教育委員の皆様方そして教育に携わっている皆様方のご意見をお出しいただく中、それに対してやはり村はどう今後対応していくかしっかり考えていかなければならないと思っております。いろんな機会を捉えて、ご意見等いただければ、また教育委員会を通じて、また行政の方でも検討させていただきます。よろしく申し上げます。いずれにしても将来の麻績村を担う子供たちは宝でございます。その宝を光り輝く子供たちに育てていきたいと思えます。それぞれ皆様方のご支援ご協力またご尽力いただければと思えますのでよろしくお願ひしたいと思えます。

5. その他

○加瀬教育長

その他、皆様の方から何かございますか。ありがとうございました。

6. 閉会

○加瀬教育長

それでは以上をもちまして、令和6年度第1回の麻績村総合教育会議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

(会議閉会 午前10時40分)